

第2回 宇部市渡辺翁記念会館保存活用計画検討委員会 議事録（摘録）

【日 時】令和6年2月2日 14:00～16:00

【場 所】宇部市役所 5階 第1委員会室

【出席者】

検討委員： 松隈委員、西川委員、内田委員、原田委員

オブザーバー： 文化庁文化資源活用課整備活用部門（建造物）五島主任文化財調査官（欠席）
山口県観光スポーツ文化部文化振興課 中山文化財専門員

事務局： 観光スポーツ文化部 冨田部長、青山次長、白井次長、
文化振興課 中祖課長、伊藤副課長、上田文化振興係長

関係課等： 教育委員会学びの森くすのき・地域文化交流課 石川副課長、
公益財団法人宇部市文化振興財団 山下事務局次長

事務局補助： 文化財保存計画協会 野村主任研究員、坂田技術員

■議事説明事項（事務局）

事務局から、以下の3つの議題について配布資料に沿って説明した。

1. 評価基準設定の方針と部分・部位の基準設定（案）について
2. 防災計画の内容と範囲について
3. 保存と活用のバランスについて

説明は議題1及び3、議題2と区分して行い、それぞれについて各委員から指摘及び指導助言を得た。

■議事における指摘事項、指導助言事項及び今後の検討事項

1. 保存活用計画全般に関して

（委員）創建時は予算上の都合等により将来的な改修を見据えていた可能性も考えられる。昭和33年大規模改修の契機等に関する行政文書が残っていないか確認すること。

（委員）配布資料中の年代には西暦を併記して分かりやすくすること。

2. 部分の基準設定に関して

（委員）平成4年改修時の取替補修箇所に再利用されたものを含め、当初の塩焼タイルの位置は特定可能か？今後張り替える場合はどのように対応するのか？

（補助）現時点では未調査のため特定できていないが近接位置から調査をすれば可能である。平成4年改修時は還元焼成タイルが用いられたが、将来的な改修においてはその時々で当初の塩焼きタイルの再現性がより高い工法がないか検討が必要と考えている。

（委員）2階の休憩室が保全部分となっているがロビーと一体の空間なので保存部分とすべきではないか。

（補助）床仕上げは同一だが、幅木でグレードが分けられている。休憩室は今後の活用も見据えて保全部分とした。

（委員）今後活用するにしても可搬式の展示設備や什器の設置程度でロビーと一体の空間として利用されるものとする。部位の基準設定に大きな差がなければ、保存部分とする方が望ましい。

（委員）当初図面においても休憩室と表記されているのか確認すること。

（委員）休憩室は現状よりさらに村野や渡辺翁の功績を展示してはどうか。

3. 部位の基準設定に関して

（委員）平成4年改修時に取替のガラスブロックは既製品を用いたのか、当初材と形状寸法にどの程度差異があるのか確認すること。

（オブザーバー）基準3と4の設定方針については違いが分かりにくいので文化庁との協議を踏まえて決定すること。

- (委員) 照明設備にも保存基準があって然るべきではないか。当初から残っているものや、後補であっても村野のデザインを踏襲しているものがあるため、基準設定について再検討すること。
- (委員) 平成4年改修時に取替の前庭床タイルは当初放射状だった。当初の様子は確認可能か。
- (事務局) 写真があるので確認できるだろう。
- (委員) 記念柱は当初仕上げの上に重ねて現在の吹付塗装仕上げが追加されたと記憶している。いつから塗装されていたのか調べること。
- (補助) 平成4年改修時に塗装をやり替えた記録があるためそれ以前から塗装仕上げであったようだが、いつからなのかは不確か。
- (委員) 記念柱の改修履歴を確認すること。

4. 記念会館の利活用や設備に関して

- (委員) 香川県庁は重文指定を機に、立ち入り制限していた屋上を一般開放したが、記念会館の屋上の将来的な活用方針はあるか？特徴的な螺旋階段も見せるべきではないか。
- (補助) 建物の見学ツアー等で引率者を付けて限定的に公開する可能性はあるだろう。
- (委員) 保全部分としている楽屋等の建物裏側の利便性を考慮した改修提案が必要ではないか。
- (委員) 文化財的価値の保存と利活用に係る整備の両方を一体的に検討する必要がある。
- (委員) 市民から利便性に関する意見・要望は汲み取っているのか。
- (事務局) アンケート等の資料を収集している。次回の委員会で資料にまとめて検討できるようにしたい。
- (委員) 空調等、室内環境の改善も含めて具体的に検討したほうがよいのか。
- (ワザハバ) 空調改修等は将来的な改修の必要性についてのみ言及することとし、改修時の指針として部位の基準設定があると捉えるべきだろう。
- (補助) 計画において、不足している設備について整理し、保存上の注意点を踏まえて改修方針を示せればと考えている。
- (事務局) 今回の計画を基に、基本構想や具体的な改修計画の作成に繋げたい。今回はまず保存すべき箇所と改修しても良い箇所を整理したいと考えている。
- (委員) 市民の声を拾い上げる機会はあるか。
- (事務局) 基本構想や基本計画を作成する段階に機会を設けることができるだろう。

5. 計画区域に関して

- (委員) 記念公園内の公衆便所は村野・森事務所の設計であることが判明したと報告があった。価値付けの課題があるのではないか。
- (補助) 第3章「環境保全計画」で記念公園内の他施設・設備と合わせて検討したい。
- (委員) 文化会館建設前の状況も含め、区域全体の変遷の履歴を整理する必要があるだろう。
- (事務局) 写真や図面等で確認して整理したい。

6. 耐震・耐風対策等に関して

- (委員) 「用途係数は1.25のままが良い」とする市の方針について了解した。
- (委員) H27年診断時の耐震補強案で外観に影響が生じるものはあるか。
- (補助) 記念柱。記念会館については開口部を通して鉄骨補強のシルエットが見える可能性がある。
- (委員) 耐震性能不足が認められる煙突は現在使用していないのか。将来的に撤去可能か。
- (補助) 文化財の範囲外であり、指定範囲に影響がなければ手続き上は可能である。
- (委員) 南北の庇について、軽量できるものなのか。
- (補助) 軽量化や補強の付加により外観意匠が損われることになる。庇下部への立ち入り規制等で対処することも可能であり、補強の要否も含めて検討が必要である。
- (委員) 記念柱は転倒防止対策のため基礎部分の増強が必要となるが、前庭タイルの更新時に併せて

補強することが可能ではないか。

(委員) 保存活用計画における耐震補強に関する議論の方向性はどのように考えればよいか。

(事務局) 将来的な実施設計の際に考慮すべき条件設定や指針を示していただきたいと考えている。

(ワザバー) 文化庁に提出済みの対処方針の内容を踏まえて議論してはどうか。

7. その他

(委員) 宇部は村野建築の「聖地」であり、その中でも記念会館は最も重要な建物の一つである。よって、この建物が村野建築の情報発信の基地となるようにしてほしい。現在の展示コーナーを充実させることも一つだが、地階の倉庫などを改修することなども考えられるのではないか。

(委員) 昭和 48 年作成の改修図面を京都工芸繊維大学美術工芸資料館で確認した。事務局側で閲覧の上、スキャンデータを宇部市で保管し、展示会等に活用してはどうか。